



# オリーブ通信

<http://www.ne.jp/asahi/olive/kusatsu>

2019年  
9月号  
2019. 9. 21. 発行  
第215号

あたら なかま しょうかい  
新しい仲間を紹介します



マイケル・ダニロ・チャベス・トレス  
(ペルー)



タイ・バー・チー  
(ベトナム)



スラチャイ・ニヤン・マーチャ  
(タイ)



チャリセ・カダム  
(ネパール)



## 新しい先生です かんがわ 寒川 敏夫 先生

KIFAの会員で海外交流に興味があります。近年話題になっている外国人実習生や外国人労働者の一助となればと日本語を教えようと思いました。現役中は長年、特許事務所で英文明細書の翻訳や特許業務に携わりました。そのためか言語には興味があり、いろんな国の人々と文化交流ができれば楽しいと考えています。



### 中川先生のへんてこ日本語

#### 暑いですね

「暑いですね」と、思わず口から出てしまう。たいした意味のない挨拶言葉ではあるが、会話のきっかけとして重要な意味を持つ。

先日スーパーでエレベーターに乗り合わせた老女性が「暑いですね」と声をかけてきた。一瞬ドキッとしたが、「毎日暑いですね」と返したら、

「気（きー）つけてお過ごしやす」と、気遣ってくれるので、こちらも「はい、ありがとうございます」とお礼を言った。わずか15秒ばかりの会話ではあったが、暑さを忘れる（ことはなかったが）ような気がした。

私の勤務する大学では、入退構時に正門の守衛さんのところで、「カードをかざして、時間管理をするようになってる。私は、守衛さんに「暑いですね」とか「よく降りますね」とか、たわいもない言葉をかけることにしているが、観察してみると、無言で通り過ぎていく人が多い。

日本人は、場面共有者と感情を同じくすることに安心感を覚えるようだ。スポーツでも、音楽でも、時空間を共有する人たちとの一体感に楽しみを感じる。「暑いですね」と言ったところで、暑さが和らぐわけではないが、皆と感情を同じくしていることで我慢もできる。

中国や韓国では、「ご飯食べた？」が挨拶になっているようだ。「もしまだだったら、一緒に食べよう」（食べないとしても）と声をかけることによって、相手を気遣う。日本では、さながら天候気候の挨拶から会話が始まる。

そう言えば、お昼時に中国や韓国の学生を研究室に呼び出すと、「先生、ご飯食べましたか」と言って、ペットボトルを差し出してくることがある。今度中国や韓国の学生を呼び出した際には、「暑いですね」と言って、うちわでも差し出してみようか。

京都外国語大学 日本語学科教授 中川良雄

# オリーブ25周年記念パーティ



現役の先生、生徒とその家族、賛助会員など 72 名が参加して8月25日(日)、オリーブ25周年記念パーティがホテル・ポストプラザで開催されました。恩地代表が25年間オリーブが続いたことに感謝の言葉を述べられ、続いて田中先生の、オリーブがますます発展して外国人の方々のお役に立てること、皆の懸賞を祈念して、という乾杯の音頭でパーティは賑やかに始まりました。

現役の先生、生徒とその家族、賛助会員など 72 名が参加して8月25日(日)、オリーブ25周年記念パーティがホテル・ポストプラザで開催されました。

恩地代表が25年間オリーブが続いたことに感謝の言葉を述べられ、続いて田中先生の、オリーブがますます発展して外国人の方々のお役に立てること、皆の懸賞を祈念して、という乾杯の音頭でパーティは賑やかに始まりました。



お料理を堪能したところで、登場したのは沖縄のエイサー。「ハイッハイッ!」という威勢のいい掛け声に合わせて手拍子で盛り上がりました。

その後は8チームに分かれての三択クイズ。最初は簡単な問題だったので油断していたところに先生たちから「私が飼っている猫の名前は?」

「私の子供の男女の順は?」など誰も答えを知らない問題が出され、生徒たちの「え〜???!」という戸惑いの声があちこちからあがりました。

正解数が多かった4チームが同点だったので各チームの代表者がじゃんけんをし、1位の「さるチーム」にお米、2位の「とりチーム」に紅茶、3位の「ひつじチーム」にはこの夏人気のタピオカ・ドリンクが賞品として恩地先生から手渡されました。

次はトランプ・ジャンケンです。次々に相手を替えてジャンケンします。勝った人は負けた人のトランプ3枚から1枚引きます。トランプがなくなったら終わりです。負けてしまった人たちの悲鳴が会場に響き渡りました(笑)。最後まで残った人たちの手持ちのトランプの数字を合計して一番多かった人が優勝です。



三択クイズ  
1位の →  
さるチーム

←  
トランプ・  
ジャンケン  
優勝者  
(68点!)





♪世界中のみんな「オー、オッ」て叫ぼう♪

そしてボリビア人のマウリシオ・ガルシアさん登場！最初は遠巻きにマウリさんの「ズンバ」パフォーマンスを見ていた生徒さんたち、「恥ずかしいのかな？」と思っていたのですが一緒に踊るときには前に出てノリノリ！先生たちも一緒に身体を動かして皆でズンバ！曲はDJ.Ricky Luna×Nando Boom×Hisatomiの「Todo El Mundo」。「肌の色とか気にしない へだてるかは君しだい うちあげてみな喜びの花火」「引き金ひかず楽器ひく指 世界揺らす音楽が俺らにとっての武器」という日本語歌詞が、いろんな国の生徒さんが仲良く参加するオリーブの活動にぴったりで印象的でした。マウリさん、ありがとう！



♪オリーブがある、オリーブがある♪

←パーティの終わりにカラオケ映像つきで小春さん作詞の「オリーブの歌」を全員で歌いました

最後の記念写真の前にサプライズで小春さんから代表の恩地さんに花束贈呈！恩地さん、小春さん、吉田さんたちがオリーブを立ち上げ、25年間も続けてくださったおかげでいろんな国からやってきた大勢の生徒たちが学びの機会を得、また先生たちも



さまざまな国から来た生徒たちと交流する機会を得ることができました。ただただ感謝です！これからも1年1年を積み重ねて皆元気に次の周年記念を迎えられますように！出口ではオリーブオイルから作られた「アレッポのソープ」が参加者全員に記念品として配られ、参加者大満足でパーティはお開きとなりました。

(写真：杉山仁 文：遠藤)





## 先月の活動(8月)



## 今月の活動予定 (9月)

日本語教室	8/3(M), 17, 24, 31 (4回)
25周年ゲーム係ミーティング	8/11(日), 17(土) 於: まちセン (恩地、内田幸、後藤、小春、高田)
25周年パーティ	8/25(日) 於: ポストンプラザH

日本語教室	9/7(M), 21, 28 (3回)
BNN日本語指導者養成講座	9/22(日) 河村・藤田・笹原・遠藤

- 日本語教室の(M)は定例ミーティング
- ( )内は参加者、または 参加予定者。敬称略



## 参加人数(8月)

	8/3	8/17	8/24	8/31
生徒	42人	24人	40人	34人
先生	20人	16人	19人	12人



## 日本語能力試験に合格しました!

N1合格 彭鵬(ホウ・ホウ)さん 中国



中国で2回、N1の試験を受けましたが失敗しました。今回やっと合格しました。オリーブの日本語クラスは、とても愉快でした。

短い期間でしたが日本語が上達しました。N1には合格しましたが、私の日本語はまだまだ不足しているところがあると思いますので続けて努力します。

N2合格 グアン・ドゥク・クアンさん ベトナム

ぼくの目標を得ることができたからすごく嬉しかったです。これからも頑張りたいと思います。辻先生のおかげです。本当にありがとうございます。

N3合格 グエン・タイン・ソンさん ベトナム

私は内田先生のおかげでN3の試験に合格しました。とても嬉しかったです。これからN2を受けるつもりです。がんばります。

N3合格 ライモンドゥス・フェリス・アティサパラさん インドネシア

働きながら日本を勉強するのは大変でしたが、オリーブのおかげでN3に合格することができました。オリーブの先生方、ありがとうございました。

N3合格 ファム・ドゥック・ヒエンさん ベトナム

日本に来たとき、日本語が下手でした。生活はとても大変だった。オリーブのクラスのおかげでN3レベルに合格しました。心から嬉しいです。本当にありがとうございます。

N4合格 アリフィン・グスティヤルさん インドネシア

今回は3回目の日本語能力試験でした。読解の問題が難しかったです。けれども試験に合格しました。よかったです。



## 会員の動き(8月)

- 〈入会〉なし
- 〈休会〉重松 叡子さん
- 〈退会〉なし

## 公益財団法人 滋賀県国際協会

### 設立40周年記念式典・講演

11月30日(土) 13:30~16:00  
(12:45開場)

ピアザ淡海3階 大会議室

記念式典: 13:30~14:15

設立40周年記念式典

滋賀国際交流賞授与式



講演会 14:30~16:00

「オモテナシからオトモダチへ」

国際ジャーナリスト

モーリー・ロバートソン氏

流暢な日本語でTVでも活躍中。

申し込み: Tel. 077-526-0931

<http://www.s-i-a.or.jp/>

9月17日 9:00より受付開始



**編集後記** 8月に友人とマダガスカルを旅行し、バオバブの木とキツネザルを見るために現地の旅行社に個人ツアーの手配をお願いしました。ガイドのジャトゥさんは日本に来たこともないのに日本語が上手! 日本に興味を持ってYouTubeの日本語レッスンで日本語を覚えたそうです。マダガスカルはアフリカの島ですが、祖先はインドネシアやマレーから来たので主食は米。棚田のある風景もアジアっぽく、人々は穏やかで本音をはっきり言わないところも昔の日本みたい。遠いけど近い国でした。